

「大型座談会」

民主党「愛国派」代議士が
福田首相に突きつける

衆議院議員●わたなべ・しゅう

渡辺 周

衆議院議員●まつばら・しん

松原 仁

自民党こそ保守政党の看板を外せ！

民主党が国政停滞の元凶？

政権交代こそ官僚支配から国益重視の
政治を取り戻す第一歩だ

衆議院議員●りゅう・ひろふみ

笠 浩史

衆議院議員●わしお・えいいちろう

鷺尾 英一郎

——本日はありがとうございます。今日は民主党のなかにあつて保守の立場から国益重視、責任ある政治の実現を目指して奮闘されておられる若手議員四人にお集まりいただきました。野党という立場で福田政権と向き合う皆様の忌憚のないお話をうかがえればと思います。衆議院と参議院で与野党の議席数が逆転する「ねじれ国会」が閉幕しました。憲政史上例のない事態に政権を担う与党の責任が問われる場面は多いですが、同時に野党のあり方も今まで以上に問われています。まずねじれ国会の総括からお聞かせください

渡辺周 私たちは「ねじれ国会」と言わず「逆転国会」と

呼んでいます。今国会の総括ですが、昨年の参院選での勝利以降、五五年体制下で長年封印されてきた官僚のやりたい放題——道路財源の無駄遣いなどが典型ですが——が白日のもとに晒されました。逆転国会最大の成果はこれでしょう。国民にあまり意義が伝わっておらず、もっと評価されていいと考えています。メディアは「ねじれ」「ねじれ」としきりに弊害ばかりを強調し、民主党が国政を停滞させた元凶のようなイメージも与えています。私たちは早く選

挙で国民の民意を問うて欲しい。これが偽らざる気持ちです。

笠浩史 「道路財源の無駄遣い」では、道路財源がマツサージチエアやアロマテラピーに充てられたり職員が大宮から厚木までタクシーに乗るための費用にまで充てられていた。仮に参院で逆転してなかつたら、あそこまで克明な無駄遣いは表に出なかつたと思います。暫定税率をめぐる議論も同じです。そもそも与党が官僚の言いなりだつた。これまで三十四年間一度も大きな問題にならなかつた訳です。こうしたさまざまな問題に風穴を開けた意味は大きかつたと思うのです。

この機会に申し上げますが、実は今国会では内閣提出の閣法が与野党の修正協議で成立しました。また与野党の協力です。多くの議員立法も成立しました。例えば学校の耐震化法もそうです。日本で大地震があると学校は避難所となる。ところが公立の小中学校の耐震化は遅々として進んでいません。大地震が起きたときに倒壊の恐れがある校舎が一万棟もあるわけです。わかっているのにやっていない。これも今国会でようやく成立しましたが官僚はこれまで消極的だつた。財務省が「お金がかかる」として抵抗していたからです。「逆転国会」への批判も頂きます。ですが、まず国民の皆さんにこうしたメリットも見て欲しい。それは官僚制民主主義から真の議会制民主主義を取り戻す大きな一歩となると思うからです。

渡辺 社会保険庁の問題、年金の問題も然りて、公務員の気概が失われ、官僚が卑しくなつたと痛感します。人から預

かつた税金を自分の金であるかのように湯水のように使い、それを正当化する理屈すらつけて来た。遺憾に思うとか、あつてはならないとか今は言っています。けれど、これまでこうした無駄遣いをずっと放置してきたことが問題なのです。

松原仁 今国会の最高のポイントは公務員制度にメスが入つたことでしょう。天下りが日本経済や社会や行政の汚点になつて居るのは間違いない。非効率で、旧態依然として、国際競争力もなく、内側しか向いていない。公務員制度の法案も与野党の修正協議の末、成立の運びとなりました。大きな成果だと思いますよ。役人には降格のシステムが事実上なかつたわけです。公務員給与の体系、号俸給はそもそも上には上がるが下には下がらない硬直的なシステムだつたのを見直したのですから。

例えば官僚は時々大きなインシキを作る。「道路をつくれば必ず黒字になる」。これが典型です。黒字の理由をどうするか。例えば道路周辺だけの人口予測を道路周辺だけ人口増で設定するわけです。日本全国人口減少で動きながらも、道路周辺だけは人口増で、道路利用率は増え、黒字を結論づける。だから、予測は当たらないのです。「いやあ人口が増えませんでした」で終わりです。「わかっているじゃないか」というわけです。民間なら詐欺、横領だが、この国の官僚には許される。年金でも出生率の前提が崩れているのに、間違つた前提で予測し、責任は取らない。おかしいですよ。これらは降格の対象にしないといけない。これが実現した。民間並みの緊張感を持つことにつながるからです。

渡辺周氏 昭和36年静岡県生まれ。早稲田大学政経学部を卒業し読売新聞記者。静岡県議会を経て衆議院議員に。現在、民主党副幹事長。安全保障委員会筆頭理事。国際テロリズムの防止及び我が国の協力支援活動並びにイラク人道復興支援活動に関する特別委員会理事。

鷲尾英一郎 私たちが官僚に何をさせていくべきか。無駄遣いを明るみに出した後、民主党に課せられている仕事はそういうテーマだと思うのです。政治がリーダーシップを取って官僚をコントロールする。長期政権の自民党政権ではこれは不可能で、これは民主党ならではの仕事だと思えます。

松原 そう。「新幹線が運転士なしでも走るのと同じだ」という人がいるけど、それは不味い。軌道上を走ると政治は同じじゃない。むしろ政治は、右に左に舵を切ることがある船に近いのだが、自民党には航海士がいないんだよ。

鷲尾 ただ、民主党も国会戦術などは考えた方がいいと思う。「肉弾戦」とか「審議拒否」などに私自身がもともとアレルギーが強い。有権者への説明も骨が折れます。自分たちが官僚支配の打破という国の舵取りに関わる問題としてそのような国会戦術で臨んでも——三月二十九日の道路の暫定税率をめぐるブリッジ法案をつぶしたのも、あの肉弾戦があったからこそであることまで否定はしませんが——有権者は必ずしもそうは捉えない。

成果は成果として認めても、こうした国会戦術で相殺されたり「民主党は抵抗政党になった」と認識する人は多い。生活密着の問題で民主党を理解し、応援する人でも、大局観を

松原仁氏 昭和31年東京生まれ。早稲田大学商学部卒。松下政経塾、東京都議会議員（二期）を経て平成十二年、衆議院議員（民主党東京3区）に初当選（三期目）。現在、外務委員、災害特理事、党拉致対策副本部長、超党派拉致議連事務局長代理、領土議連事務局長。

要する話や国益が絡む話、安全保障などで一丸とならねばならない時に足並みが揃わずに、苛立ちや停滞感を抱いたり、民主党が批判的になっていく面はある。

あれだけの与党の強行採決が異常であることを、まず国民に訴えたい半面で、権力を握った野党にもやりすぎはあるでしょう。与野党、このねじれ国会を通じてもう少しお互いに成熟、自重しないとイケない面はあるだろうと感じています。

松原 抵抗政党という言葉について。我々が何に抵抗しているか。それは官僚主義で、官僚独裁政治に自民党がイエスマンになっている。これに抵抗しているのです。後期高齢者医療が良い例です。あれは自民党が考えた政策ではない。官僚が考えたのです。自民党議員は「あの法案ひどいなあ」とか後で言っています。官僚に無批判だからそうなってしまう。私たちは、優秀で知識もあり、情報、人員で凌駕している官僚に抵抗している。こちらはわずか二百数十人の議員です。こうした私たちの戦いを官僚組織こそ「抵抗勢力」「国政の停滞」などとレッテルを貼ろうとして情報を流しているのです。

笠 それから、自民党が官僚をコントロールしていないの

は、自民党の力が落ちてきているからですよ。そこを見逃すべきではないし、国民に知って欲しいことです。後期高齢者医療も昔の自民党の部会なら「戦前から戦後の厳しい時代を生き抜いてきた方々に報いるのが政治だ」といった考えを持つ政治家がたくさんいて「制度の善し悪しではない。この法律はおかしい」といえる強者が国会提出を許さなかつたはずです。

渡辺 国家観を持った政治が足りない原因を逆転国会と結びつけることがあります。これは不本意です。政治が小選挙区導入で、大局より選挙区の有権者に目を奪われがちになり、メディアや支持率を気にする政治になった。私自身にも忸怩たる思いがあります。しかし、これは逆転国会とは別の問題だと思う。安全保障の会議も国際貢献が如何にあるべきか本当は論じたい。しかし、実態はテロ特措法にもとづく給油のミスや守屋前防衛事務次官の問題などスキャンダルの追及の場と化し、追及が甘いと批判される。しかし、スキャンダルの追及だけが安全保障ではない。中国の脅威などを論じなければならぬのに、やるが多すぎてやっていない。政治家が週刊誌の記者か社会部の記者みたいに、攻撃するネタや特ダネはないかと明け暮れていると見られることにジレンマを感じています。

笠浩史氏 昭和40年福岡県生まれ。慶応大文学部卒業後、テレビ朝日に入社。報道局（政治部）勤務などを経て衆議院議員に。現在予算委員会、文部科学委員会に所属し党では副幹事長、神奈川県連代表を務める。神奈川9区、比例当選2回。

追及は厳しくなければならぬ。世間の耳目を集めることも大事でしょう。それはしっかりやらなければいけない。ただ、それは国家の未来とか天下国家を論じる入り口に過ぎないことも、しっかり認識しておかないといけないと思うのです。

笠 確かに今国会で国家の骨格の問題について議論をやっていないという批判がありますが、これは逆転したからではなくそれ以前からそうだった。例えば地方分権。これはずっと言われ続けてなかなか進まない問題ですが、国の統治機構そのものを変えていく改革です。霞が関全体が反対するんだから政治主導でなければできない。だから政権交代という政治のダイナミズムが必要なんです。そうしなければ何から何まで国会で問題になり、大局に立つ議論がないなんてこともなくなると思う。国会議員は外交や安全保障、憲法、教育のあるべき姿など全体的な枠組みの議論に専念できると思うのです。

官僚主義が生んだ事なかれ外交の責任

松原 外交の弱腰は官僚主義の弊害と私は考えてます。安倍氏は全く違いました。福田政権は中国にも何も言わな

鷲尾英一郎氏 昭和52年生まれ。東京大学経済学部を卒業後、監査法人に勤務後独立。平成17年、衆院選に新潟2区より立候補、比例北陸信越ブロックで初当選。国土交通委員会、北朝鮮による拉致問題等に関する特別委員会委員。

い。それは事なかれ主義の官僚組織のいいなりだからです。彼らは内には強い。外にはモノをいわない。米議会で慰安婦決議があるからといって、きちんと反論しない。弱いモノには強い、強いモノに徹底して巻かれるわけです。それから、官僚には数値を持ち出す習性があるが、物事には数値化できないものがある。「国家の名誉」とか「先人に対する誇り」「栄光ある未来」といった目に見えないものは、数値化できませんよ。こうした問題に官僚はピンと来ない。教科書問題で近隣諸国の干渉になぜ、譲歩してはいけないか、官僚はわからない。自民党が官僚主義にきちんと抵抗しているかといえば、一緒に亡国の歩みに手を貸しているとやわざるを得ない。そうした官僚の言いなりが外には弱く自虐的な日本をつくった面は否定できないと思うのです。



松原仁氏

米国に任せ有権者はほとんど関心を払わなかった。

松原 経済学者のシユンペーターが活力ある企業を調べ、その共通項を分析し

て「創造的破壊」という言葉を提唱しました。国家に当てはめれば「創造的破壊」の第一歩は政権交代なんです。権力が腐敗するのは本当です。ただ、政治に国民が期待する「創造的破壊」とは単に政権が代わるのではなく、もつとハードルの高い話かも知れない。それは政治がすっかり考えて処していかなければいけないと考えています。

それから人間の欲求を研究したマズローによると、欲求には段階があり、生存の欲求、帰属の欲求から、自己実現の欲求につながっている。戦後日本も豊かさを求め、それを手にした。今何を求めているか。それは誇りとか名誉だろうと思うのです。金目の問題ではない。国家の地位であつたり誇りであつたり精神的なものだと思ふ。私は名誉とか目に見えない価値、日本人の精神的な価値観に重心を置いた新しい政治勢力が生まれてくる必然性があるし、国民もそうした勢力による政治を必要だと願っていると考えています。

渡辺 外交で私が申し上げたいことは、対米と対中国に国民が無力感を抱えているという問題ですね。私どもは保守系の新聞からは随分叩かれましたが、国会で思いやり予算の問題に斬り込みました。調べてみてわかったのは、米国の兵士がバナナボートに乗って海で遊ぶ。この引つ張るモーターボートの操縦士の費用までもが日本の税金で賄われている。ゴルフ場の整備やボウリング場で靴を配る人の人件費まで然り。どうしてここまで日本国民が面倒見ないといけないのか。こんなことをしていたら、日米はとても対等な関係とはいえない。国の姿としておかしいと思うのです。



渡辺周氏

「そんなことを問題視するのは日米関係を損なう」と批判する人もいます。確かに日米同盟は大切な基軸です。が、この問題は、それで唯々

諾々と済ませていいとは思えなかった。むしろ「これ以上こんな屈辱的な税金は出せない」とすぐむタフネゴシエーターこそ必要で、そうなれば彼らも一目置くと思うのです。

松原 額が大きく、健全な関係にする努力はしないとけない。私たちは確かに米国の軍事的な傘の下にいるが、米国の国債も七十兆買っている。それなりに日本は米国社会の礎になっているのであって、そう考えれば緊張感が必要だと思う。この問題は日本人の精神的な価値を取り戻すのが大事だという先ほどの問題ともつながっている。日本人の精神的な価値を回復する根本は東京裁判が根本だと私は思う。戦後保守とは何か。戦後いろいろな保守を語る運動があった。反ソ、反北朝鮮、反中国、反共産主義も保守だったし、安全保障の観点で保守を語る向きもあった。また「対米協調保守」や戦後の権力構造で「権力を握っている保守」という認識すらあった。私はそれは正しくないと思う。戦後のフレームを見つめ直すことこそ、欠かせない視点で、そのなかに東京裁判や、米国に押しつけられた憲法を見直すことが不可欠な要素として入ってくると思う。

東京裁判の見直し、これが真正な保守勢力の根底となるならば、私は深刻で重大な決断が伴ってくると思う。それは米国との関係です。東京裁判を否定する以上、米国との関係は緊張感を持たざるを得ない。例えば、原爆投下を蒸し返して我々は米国に謝罪決議を求めたりはしない。が、彼らが慰安婦の問題を持ち出すなら「だったら原爆投下はアメリカ氏どうなのか」くらいのことには突きつけるのが真正保守の矜持だと思う。米国の手先、対米盲従が保守になっているのはおかしいわけですよ。

現状において米国は同盟国です。日本の大切なパートナーであることはいうまでもない。頭から反米を決めつける必要はないが、米国におもねる必要だつてないのです。イスラムとの関係もよく考えないといけない。自衛隊のイラク派遣もこうした観点で考えておいた方が良かった。イラクは日本を「十字軍に参加していない国」と認識していた。彼らは西洋のキリスト教国と日本は別の国だという認識を持っていた。そうした特典をみすみす失うのは日本の国益にとってよくない。中国はキリスト教国ではない。だからイスラムとの親和関係を保つために、そうした活動に人手は出していない。要領がいいといえそうですが、安直に盲目的にアメリカに追随するのが正しいとはいえない。結論ありきはおかしい。こうした自覚を日本人は持っていたほうがいいし、少なくとも目先の日米同盟の利害のために後世の日本人がイスラム社会から得るであろう利益を失うかもしれないという国家戦略は持つて臨んだ方がいいということです。

一元的な対中国外交部局が必要ではないか

松原 中国にいたっては日本をなぶってばかりいるでしょう。餃子も慰安婦も南京も尖閣もガス田も次から次に問題が出てくる。南京虐殺でいえば、人口動向、国民党の南京政府の三百回に及ぶ記者会見でも触れられていない。どう考えたって有り得ない。周氏も言ったけど日本人が妥協しすぎなんだね。この間米国の保守系シンクタンク「ヘリテイジ財団」に行く機会があった。米国の親目的な研究機関ですら「南京虐殺はあったんですよ」などと言われる。彼らはスパイであるラーベの証言を未だに信じているんです。

外務省がきちんと説明すべきなのに「そういうことは民間でやってください」という言い草です。僕はこの根性が気に入らないのです。国益という観点が無い。日米貿易摩擦、農産物交渉だけが外交交渉じゃない。南京虐殺だって名誉が関わる大事な外交交渉のテーマで政府ははじめにやるべきだという自覚がないのです。中国での反日教育の教本を見ると、思想闘争の一貫であると明確に位置づけられている。反目的な展示もその一貫で、きちんとそうした意味を認識して臨まない、大変なことになるのです。それは農産物交渉や自動車と同じくらい大切な外交テーマにしないとダメなんです。南京虐殺の虐殺者数が三十万人なんて荒唐無稽な主張を相手ができなくなるまで、相手を追いつめる努力をする必要

があるんですよ。

渡辺 日本人が安全保障に疎い間に中国が核を保有し、海洋調査と称して日本近海の海を全て調べ尽くし、気が付いたら脅威に取り囲まれてしまった。中国は膨大な食糧の輸入国に転じています。外交、安全保障以外にもいろいろなテーマが生じてくるだろう。僕がひとつ提案したいことは、各省庁がばらばらに臨んでいる対中国との問題を束ねる中国局というものが内閣官房などに必要だと思う。あらゆる中国問題に一丸となって対処する必要——平松茂雄元杏林大学教授によれば特に彼らは、明確な国家目標として核と海洋と宇宙を掲げてソ連とどう関係がこじれようが何十年かけてもやるわけでしょう——があるし、やはりあの国の覇権主義に縦割りで臨むのは得策ではない。ガス田問題が彼らとの間に問題になつていながら、調べてみたら、そのための上海までのパイプラインに旧日本輸出入銀行（現国際協力銀行）が融資していたなんて信じられない話が現実には起きているわけです。思想や国民性なども含め、軍事的な専門家や外国の専門家の見識を踏まえながら、この国が十年でどうなっていくかを占う組織が必要だと思う。

それから、日本人が日本本来の性根の良さに自信を持つべきだと私は思う。日本人が日本人の力を見直すことが大切だと考えます。外国に行けば騙されたり、ぼったくられたりかっぱらいにあつたり、様々な嫌な思いを味わうのに日本人はたとえ一見の外国人にも、そういうことをしないでしょ。釣り銭をちよろまかしてやろうとか、バッタものを売り

つけてやろうとか微塵も思わないでしょう。先祖から受け継いできた日本人の良さというのはそういうものですよ。英国国营放送BBCが「最も国民性に好感を持てる国」を二万八千人の人に尋ねた調査では一位は日本だったんですね。

仁さんが述べた中国の反日教育について私は、いわれの無い誹謗中傷には反論すべきだと考えてます。日本人は本来的に争いが嫌いですから、もめ事があるとまあまあとなだめ丸く収めるのを美德とするところがあります。ところが、これは国際社会では全く通用しない。河野談話のように「とりあえず謝っておこう」では全くダメだし、米議会で慰安婦問題に対する対日謝罪決議が可決されましたが、この時にも日本国内では「騒ぐな」「黙っている」といった反応があった。強者ばかりが外交謀略を張り巡らす国際社会の厳しい荒波をそんなお人好しで渡っていけるわけがないのです。

まず中国への一元的な対応部局を創設し、日本人の良い面をもっと世界に広める。これを日本外交に注文したいですね。

鷲尾 中国との関係でいえば、仲良くするのはいい。ただ正義をまげるといいたい。ベタ折りでこちらが一方的に譲歩するために中国に行く今の外交はおかしい。チベットも中国の内政問題、対話するようにと言いながら、トランジットでダライ・ラマ法王が成田に立ち寄っても、日本政府は会っていないわけです。会わなければ駄目ですよ。安倍氏の奥様と太田誠一氏しか会ってない。いうことはいい、やることはやれと言っているんですよ。お友達外交というのはベタおりを堂々と掲げているみたいなのです。相手の嫌なことをし

ないで国際社会を生きていくなんてできませんよ。

それから北朝鮮外交。国会で議連をつくり日朝国交正常化を進めようという人たちがいるわけですね。これは政府が交渉するうえで「議会でこんなこといつているじゃないか」となりかねない。国益を損なう動きだと思います。議会がなぜ政府をバックアップしないのか。今国会ではテロ支援国家の指定解除が日米同盟に重要な悪影響を及ぼすからやめろという国会決議を通しましたが、議会からの声は他国政府にインパクトを与えます。その意味で国交正常化議連の動きは本当に問題があります。

松原 「外交は内政を凌駕する」といって、外交で決めたことが内政をひっくり返す力を持っている。例えば金融機関へのBIS規制が典型でしょう。議会ももっと外交を研究しないといけない。議会が外交交渉相手に如才なくニコニコつきあうのでなく、厳しく臨む。政府を突き上げる。政府はそういう議会の追及を常に背にして交渉相手に臨む構造でないとダメだと思います。その意味で今、鷲尾先生が述べた北朝鮮の国交正常化議連なんて愚の骨頂だと思っただけです。私は北の拉致問題は金正日体制がなくなると解決しないと考えています。だから外交に携わる人は金正日体制がつぶれるためにどうすればいいか、水面下で考え、議論しないと駄目だと思っただけです。特定失踪者の真相も金正日体制がつぶれないとつかめないうえ、彼らをどう追いつめ、如何なる意味でもそれまで彼らを支援するそぶりなど見せてはいけないと思います。

渡辺 国交正常化議連は北朝鮮につけるスキを自ら与え

ていると危惧します。北朝鮮はほくそ笑んでいるに違いない。

松原 この間、拉致議連の役員会があり、中川昭一氏や安倍晋三氏もいらした。私も行きましたが、自民党のなかにも、この国交正常化議連に、もの凄く危機感があることをひしひし感じましたよ。というのは自民党にも国交正常化議連の中核メンバーに党幹部が名を連ねているからです。

——山崎拓氏と加藤紘一氏ですね
松原 そう。うちもいるんですね。

——菅直人代表代行ですね

松原 そう。私は、代議士会で民主党の代表や代表代行がそういうことをやるのは良くないと申し上げた。国際社会、北朝鮮に誤ったメッセージを送り、日本の国益にならない。自民党はそういう動きにきちんと危機感を持っているから、安倍氏までが駆けつけるわけです。

笠 福田政権の外交にはある種の危うさを感じています。先日、日朝実務者協議を受けて北朝鮮への制裁を一部解除する方針を打ち出しました。早すぎます。北朝鮮がどういう調査をするのか。米国のテロ支援国家指定の解除を狙い



史氏 笠浩

りゅう

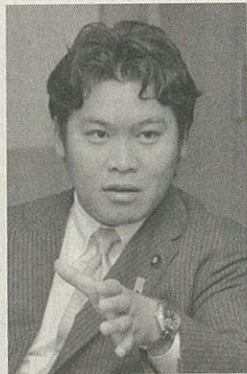
日本を利用しては
のではないかなど多
くの疑問がある。対
話することを否定は
しません、圧力を
弱めるべきかどうか
は判断を慎重にすべ

きです。二〇〇四年の再調査では偽の遺骨を送りつけてきた前科もあるわけです。政府認定の拉致被害者に加え、特定失踪者も含めて北朝鮮が我が国として納得のできる調査結果を出したときに初めて制裁解除を検討すべきです。日中首脳会谈も懸案について当たり障りない程度にしか言及しない。突っ込んで日本の主張をすべきではないか。卓球とパンダだけに焦点があたるといいうのも皮肉なことです。

学級委員会を超えた格調高い代表選びがしたい

渡辺 民主党の代表選挙について話しましょう。党内には代表選をやるべきだという人、そうでない人もいます。実は非常にやりづらい状況です。どういうことかという点、小沢氏への世論の支持は低い。例えば「総理にふさわしいか」といえば福田氏とどっこいどっこいですし、一方で民主党への支持はダブルスコアで自民党を上回っている。つまり、小沢氏というより「民主党」「アンチ自民」が、国民の世論ではないか。両方低ければこれは小沢氏に代わってもらい民主党の浮上を考える必要があるが、決してそうでもない。代表選をやると、「親小沢か」「反小沢か」となるし、メディアも虎視眈々とそれを狙っているでしょう。

私自身は小沢統投論者ですが、小沢氏に注文したいことはある。まず小沢氏はもっと国会に出てこないといけないと思います。肝心の採決の時に現場の国会にいない。このことへ



鷲尾英一郎氏

のですから、言い訳しようがないわけです。

鷲尾 党をまとめるという意味で小沢代表の他に代わる人はいない。民主党は自民党より右から左まで幅が広くてそのなかで、国民に選択肢——二大政党制をつくるという——を示して、それで党を一つにまとめてコミットさせていく難しさを考えたら、これはなかなかの作業だと思うのです。これが小沢代表以外に誰かできるか。できないでしょう。

好きか嫌いかで論じればそれはいくらでもいえる。けれどもそういう次元で争っているうちには民主党はいつまで経っても学級委員会の域を出ない。俺はこういうビジョンで行くと掲げて、党を説得して歩く。皆をまとめることを小沢氏以外の人がどこまでやっているかといえば彼以外いない。代表の任期は九月に切れますが、小沢氏以外に代表になりたい人がいれば、もうビジョンを示す必要がある時期です。でもそうした人は現れないですよ。直前になって、手を挙げる人はいるかもしれないが、手を挙げるのなら、ビジョンを示し、なおかつそれで党をまとめるために歩かなければならぬ……などと考えると、「今ごろになって何を言っているんだ」

という感じですよ。私はその意味で民主党の代表は小沢氏がふさわしいと私は考えています。

笠 代表選に誰が立候補し、どういう形で行われるかはまだわかりませんが、決まっていることを粛々とやればいいんです。周さんが話したように、民主党に一回やらせてみよう、これまでの自民党中心の政治を変えて政治家の癒着、税の無駄遣いなどの大掃除をやらせてみようという期待感も国民のなかで高まっているわけです。こうしたなかで私の支援者にも「小沢氏先頭に立ってくれ」という人もいれば「小沢氏だけは代えてほしい」という人もいるわけです。

私がいつも申し上げているのは自民党から政権を奪うことが並大抵でないことを忘れてはいけないということです。自民党は一度政権の座を失い野党に転落した。そこから自民党は社民党と連立を組む離れ業までやってのけて政権の座に返り咲いた。何でもありではあるが、私たちは彼らのすさまじい執念を肝に銘じて臨まないといけない。次の選挙まで考えて——それまでもいろいろあるかもしれないが——関門を突破して自民党政権を壊していく力を備えるリーダーは小沢氏以外いない。こう私は思っています。

渡辺 政権交代するか新党と一緒になるか。あれこれ選択肢があるにせよ、細川政権がなぜ失敗したのかを小沢氏はよく熟知しているわけでしょう。連立政権は政権交代はできたが、政権維持ができなかった。その失敗を味わっている小沢氏は民主党が政権を奪い、政権を運営していくうえで、彼のノウハウはなくてはならないと思う。

笠 松原先生の「創造的破壊」ですが、「破壊」というのはある意味、政権交代するということで、これは政治のゴールではないわけですね。スタートラインに立つという意味だろうと思う。そのリーダーは今の民主党には小沢氏以外にいない。そして政権を担って——「創造的破壊」の「創造」の部分ですね——新たに政権を築いていくのは私たち若い世代の大切な仕事である。その時のリーダーに誰がふさわしいのか。それはその時考えるべき問題で、今は「創造的破壊」の「破壊」が実現するかどうか、スタートラインに立つかどうかの戦いなんですよ。

政権が代わり今の民主、自民を中心にした二大政党で行くか、将来新たな政界再編が起こるのか。わからないけれども、少なくともそこまでは小沢氏で行くというのは理に適った判断だと思う。昨年の参院選、四月の山口補選勝利も——皆が頑張ったからこそ勝ったわけですが——リーダーである小沢氏のもとで信任を得た。政治は結果が全てです。そういう意味でも小沢氏統投で私はいいと思うのです。メディアも与党も「小沢が好きか嫌いか」で流れていく代表選を手ぐすね引いて待っている。政策論争の代表選挙なら大いにやるべきだが、単に「小沢か反小沢か」という選挙の構図にすべきではないと思いますね。

鷲尾 同感ですね。小沢氏が好きか嫌いかでは愚かしいことこの上ない。次の代表選は次のマニフェストを決める選挙でもあるから、きちんとやるべきです。

松原 今の民主党執行部に注文するとすれば、「外交を政

局でやるな」と言いたいですね。代表選が政策で争われなれないけないことはいまでもない。政策とは信念に基づく問題といってもいいでしょう。日本の名譽をどうするかという問題は信念であり、政策の問題だ。しかし政局とはそういう信念とは別で、今をどう乗り切るかという問題と云っている。民主党代表選に対して国民は何を期待しているかといえば、政策論としての代表選に期待しているとは思えない。権力闘争的な代表選ではないはずですよ。やるべき抗争は派閥抗争でなく、政策闘争であるべきだと思います。

何を軸にするかが問われる政界の再編

鷲尾 平沼新党についても述べましょう。私は平沼新党が即座に政界再編の発火点になるとは思わないし、政界再編に期待が高まっていくのはいいとしても今まさに産まれようとしている二大政党政治が急激に壊れ、政治がより混乱することを国民が望んでいるとは思えない。そうしたことを期待しているとも思えない。ただ、平沼新党が出来た背景を考えると、自民党は嫌だが、民主党で大丈夫なのか？と不安を抱いている世論も結構ある。それが第三極の形成につながっていると思えてならないのです。国民の二大政党への期待は基本的に色あせてないと思うが、ただ、民主党に対する不安を持つ世論の受け皿として第三極があるのではないかと考えています。

渡辺 高知県知事だった橋本大二郎氏が言っていた「自民

党には不満だが、民主党には不安だ」という方々ですね。

笠 次の選挙で民主党が勝てば政権交代する。先ほどの官僚政治の打破といったテーマがスタートラインに立つわけです。場合によってはそうしたなかで政界再編というものが起こるかもしれないとは考えています。あるいは総選挙の結果次第では大きく動く可能性もあるでしょう。ただ、大事なことはその場合、何を軸にして政界再編が起きるかということではないか。それが大事だということです。人の好き嫌いで離合集散しても、また壊れるだけで全く意味はない。現実には何で割れるか。私は国益の担い手として覚悟をもって議員活動するために、憲法なり外交なり安全保障で別れていかなければいけない、そう考えてます。

渡辺 与党から今、しきりに持ち出される再編、再編というのは民主党の分裂を誘い出すものでしかない。平沼新党がどうなるか。イメージが湧きませんが平沼新党がもし非自民であるならば平沼氏を首班にした連立政権でもいいと思うし、そうなるると自民党は攻めづらいでしょね。間違いない。平沼氏に対しては自民党にもシンパシーを持っている方が大勢いますし、小沢氏なら攻められるが平沼氏だから攻めづらい局面はあるだろうと思うのです。

笠 平沼新党がいつどういう形でできるのかわかりませんが、少なくとも総選挙前にそれが発火点になって自民も民主も割れ分かり易く雪崩れることはないと思います。私は平沼氏のおっしゃる覚悟をもったぶれない保守政治家の結集に大いに共鳴しています。総選挙の結果次第でいろんな運動もで

きると思うし、政界が将来大きな再編の流れに流れ込んでいくとしたらキャスティングボートを握るのではないかとみています。

鷲尾 民主党の中にもリベラルというか本当にかなり多様な見解をお持ちの方がいらっしやいまして機関決定にも関わってこられますからね。民主党のそういう党内事情を考えると平沼新党は、心強いという面はあります。

松原 国民のなかには拉致はどうなった、対中政策どうなった、日本の誇りどうなっているのと考えておられる国民が一定数いるわけですし、平沼氏がそうした層の声を代弁する政治勢力を結集することになれば、それは新しい国益勢力の旗揚げとなる。そうした勢力と民主党がどう手を結ぶかという意味でも多彩な可能性を秘めているわけですよ。

渡辺 とにかくまず再編は自公が野党にならないと始まりませんからね。

自民党内以上に我々の議論こそ国益を左右する

——外国人参政権の議論が民主党内で起こっていますが

渡辺 人権擁護法案について民主党は二〇〇二年に党の案を出しています。ただ、それは人権の定義はできておらず、党内での議論もほとんどざれていない状況です。

鷲尾 自民党内でも今、太田誠一試案が出ているのみだ。

渡辺 人権侵害とは何か？個別法で対応できないのか？警

察権を付与する、それも令状なしですから、問題が多いわけです。共謀罪であれだけ反対している人達がなぜこの問題では発言しないのか、反対しないのか不思議です

鷲尾 人権侵害の恐れがあるだけでアウトなわけでしょう。「恐れ」があるだけで問題にするのはおかしいし、そもそも人権侵害って何かが法律としてきちんと詰めなければならぬのに全く為されていない。というか出来ないのですよ。

渡辺 生まれた場所でいわれなき差別を受けたり、結婚や就職などで差別されることが許されないことはいうまでもありません。ただ、この法律でそれを人権侵害として認定してそこに公権力が踏み込む。警察権に匹敵する権限を付与する法律が果たして必要だとは思えない。それではそれは「人権侵害」の名の下に新たな人権侵害を生んだり、特定の人の社会的抹殺を図ることもつながらず。

例えば連続通り魔のような重大犯罪が起きたとしましょう。犯人に「こんな奴は死刑が当然だ、罪のない人を何人も殺して、社会として許せない」と発言したとする。「殺人者にだって人権はある。人権侵害だ」となり得るわけです。どこまでが許されるのが全くわからない。どうにだって判断できる。それは恐ろしい世の中ですよ。暗黒社会ですよ。問題になっている虐待とかストーカーの問題は個別法で今対応していますよ。もし幼児虐待だってDVだってあるいはネットでは個別法なり対策に取り組んでいるし、対策が十分ではないという批判には対策強化していけばいい。人権擁護法案なん

て必要ないんですよ。

鷲尾 人権侵害を判断するのも人権擁護委員で、なおかつそれには国籍条項がない。

渡辺 それと外国人参政権と人権擁護法案というのは地続きの問題です。岡田克也氏ら推進グループが外国人参政権の問題について有志による議連をつくり提言をまとめ動き始めたのです。党内には反対派や慎重派もいます。それは党内を二分する話なので、勝手にまとめて勝手に党の考えになるのであればそれは大変だとばかりに、渡部恒三氏を長とするプロジェクトチームを作った段階です。

笠 周さんが言ったように党内の議論は二分されています。ただ推進派、慎重派として明確な意思表示をしているのはそれぞれ二割ぐらいではないか。多くの人が態度を鮮明にしていけないし、迷っているのではないか。こうした人のため十分に時間をかけて議論することは必要でしょう。しかし、国の根幹に関わる問題ですので、足して二で割るような結論を出すことはできない。推進派のなかには地方参政権だからいいじゃないかという人がいます。しかし、地方選でも米軍基地や原発など国家の政策と不可分の問題がたびたび争点になる。平成七年の最高裁で——法的拘束力がない傍論では永住外国人参政権の付与は憲法で禁じられていないという理解できない解釈が加えられました——本文では憲法九三条第二項の住民とは地方自治体の区域内に住所を有する日本国民を意味すると解するのが相当として明確に退けているわけです。私は日本が真に国際社会に開かれた国家と

するためには我が国と運命を共にする意思を持つ外国人を積極的に受け容れていく必要があると思うし、国籍取得を望む永住外国人について複雑な手続きを廃して帰化しやすい環境を整えることが必要だと思います。

鷲尾 これから地方分権を進めるのにその地方自治体の意思決定に外国人を入れていいなんて明らかにおかしい話です。



左から松原、渡辺、鷲尾、笠の各議員

渡辺 善良な外国人もいます。しかし、一方で政治的な意図をもったり、思想的な意図をもった外国人はいる。東京都で中国人は十万人いる。百人に一人は中国人ですよ。そのなかには政治的背景や思想的背景を持った外国人もいれば、そういうコミュニティもあるわけですよ。たとえ一地方議会といつても地方議員を送り込むことが可能になってくるし、どんどん入ってくるわけですよ。地続きのヨーロッパ、北欧なんかを例に挙げて移民を云々する人もいるけ

ど、文化は違うし一緒にするのは無茶な話です。彼らは労働力確保のためにそうせざるをえなかった。日本は永住外国人みたいな特殊な過去があるし、一緒にしてはできないですね。実際問題、本当に外国人参政権がなくてはならないなんて切実な声を聞いたことすらないのに、何でそんなことやらなくてはいけぬのか根本的な疑問もありますね。

鷲尾 何で政治課題になるのか、違和感を感じる。多元的文化を認めるとかいうけど、論理としては破綻している。きれいな言葉だけに流されてしまう。字面に流されるが思想的な背景や裏にある法律の意味までわかって賛成する人はあまりいないと思います。外国人参政権や人権擁護法案というのは。

渡辺 我々が民主党でこうした問題に取り組んでいくのはやはりナシヨナリズムを考えているからなのです。ナシヨナリズムといつてもヒステリックなものではない。ジャーナリズムといつてもナシヨナリズムだと思えます。実証的なナシヨナリズムというものが大切だろうと思う。民主党のなかを見ると五五年体制に染まっていない議員が増えている。つまりかつての労働組合出身で闘争体質を引きずった方々がいました。めっきり減っている。国家観といった極めて重要な問題についても何ら構えることなく論じたり、共有できる議員が増えているのです。

外国人参政権の問題はこれからしつかり党内で対処しないといけない。与党を監視するという意味でも野党第一党の党内議論は始まったばかりですが、実は自民党以上に我々の議論の行方が日本の国益に大きな意味を持つと考えています。